

教科	理科	科目	生物基礎			単位数	2 単位
学科	普通科	履修 学年	1 学年	コース		必修・選 択	必修
教科書	改訂版 高等学校生物基礎（数研出版）						
副教材等	三訂版 リードα 生物基礎（数研出版）						

グラデュエーション ・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム ・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
指導の重点	生物や生命現象について観察や、実験などを通して考察し、科学的なものの見方を養うことを大きな指導の重点とする。また、生物とそれを取り巻く自然現象を総合的にとらえることができるように指導する。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	生物の特徴 遺伝子とそのはたらき	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 (中間考査) 光合成と呼吸 遺伝情報とDNA (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (24)	遺伝子とそのはたらき ヒトの体内環境の維持	遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現 体内での情報伝達と調節 (中間考査) 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	3 学期 (20)	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全 (学年末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価の観点 の趣旨と 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物や生物現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。		生物や生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、導き出した自らの考えを的確に表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
[評価方法] 定期考査 小テストの成績 実験レポート 等		[評価方法] 定期考査 実験レポート 授業中の発言 グループワーク 等		[評価方法] 実験への取組状況 授業プリント 等
上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。		上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。		上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。

学習の ポイント	内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ①中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。 ②「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、報告書を作成させたり発表を行う機会を設けたりすること。またその特質に応じて、問題を見いだすための観察、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させること。その際、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用を図ること。 ③生物の共通性と多様性については、この科目の導入として位置付け、以後の学習においても、共通性と多様性の視点を意識させるよう展開すること。 ④生物の共通性と多様性については、生物が共通性を保ちながら進化した多様化してきたこと、その共通性は起源の共有に由来することを扱うこと。その際、原核生物と真核生物の観察を行うこと。 ⑤細胞とエネルギーについては、呼吸と光合成の概要を扱うこと。その際、酵素の触媒作用やATPの役割にも触れること。 ⑥遺伝情報とDNAについては、DNAの二重らせん構造と塩基の相補性を扱うこと。また、遺伝子とゲノムとの関係に触れること。 ⑦遺伝情報の分配については、細胞周期と関連付けて扱うこと。 ⑧遺伝情報とタンパク質の合成については、転写と翻訳の概要を扱うこと。その際、タンパク質の生命現象における重要性にも触れること。また、すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことにも触れること。 ⑨体内環境の維持の仕組みについては、血糖濃度の調節機構を取り上げること。その際、身近な疾患の例にも触れること。 ⑩免疫については、身近な疾患の例にも触れること。 ⑪植生と遷移については、植生の成り立ちには光や土壌などが関係することを扱うこと。また、植物の環境形成作用にも触れること。 ⑫気候とバイオームについては、気温と降水量に対する適応に関連付けて扱うこと。また、日本のバイオームも扱うこと。 ⑬生態系のバランスと保全については、人間の活動によって生態系が攪乱され、生物の多様性が損なわれることがあることを扱うこと。
----------------------------	--